ICOM

取扱説明書

車載型デジタル簡易無線機
IC-DU5505C

この無線機を使用するためには、総務省の無線局の免許が必要です。
免許を受けずに使用すると、電波法第 110 条の規定により処罰されます。

Icom Inc.

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、ありがとうございます。

本製品は、技術基準適合証明で認定された国内業務用無線電話装置です。

ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、大切に保管してください。

取扱説明書の内容について

◎この取扱説明書に記載の操作や機能は、お買い上げの販売店であらかじめ設定をご依頼いただくことにより使用できる機能も含まれています。

本書では、デジタルモードでの使いかたを例に記載しています。アナログモードでお使いの場合も、使いかたは同じです。アナログモードでの個別番号などの設定値について詳しくは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

◎この取扱説明書では、一般的なご使用を想定した内容にしていますので、設定されている機能について詳しくは、お買い上げの販売店にお尋ねください。

登録商標/著作権について

アイコム株式会社、アイコム、Icom Inc.、アイコムロゴ、ポケットビープは、アイコム株式会社の登録商標です。
その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。
本製品のフォントはリョービのフォントを採用しております。

本製品の概要について

◎本製品は電波法に基づいて、特定無線設備の工事設計についての認証(技術基準適合証明)を取得した製品です。

◎デジタル、アナログの両機能を搭載しています(設定はお買い上げの販売店にご依頼ください)。

◎チャンネル番号の代わりとして、漢字、英数字、記号、外字を使用した半角8(全角4)文字で表示できます。

◎緊急呼び出し機能に対応しています。

◎弊社製携帯型デジタル簡易無線機(IC-DU55C)と組み合わせて、簡単なデジタル無線システム運用ができます。

◎別売品の卓上電源装置(PS-230A)と組み合わせて、簡易基地局が構築できます。

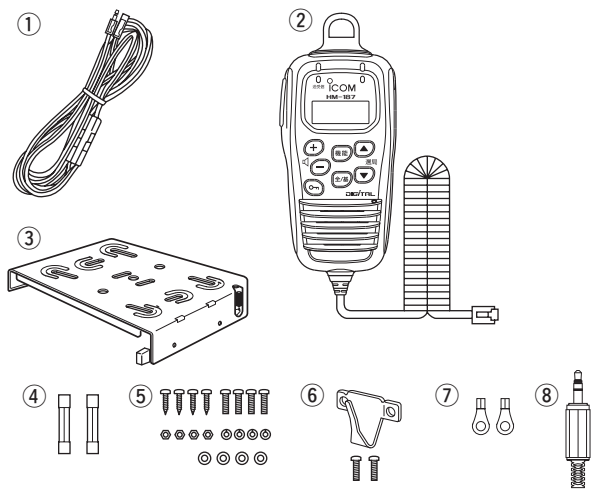
The AMBE+2™ voice coding Technology embodied in this product is protected by intellectual property rights including patent rights, copyrights and trade secrets of Digital Voice Systems, Inc. This voice coding Technology is licensed solely for use within this Communications Equipment. The user of this Technology is explicitly prohibited from attempting to extract, remove, decompile, reverse engineer, or disassemble the Object Code, or in any other way convert the Object Code into a human-readable form U.S. Patent Nos. #5,870,405, #5,826,222, #5,701,390, #5,715,365, #5,649,050, #5,630,011, #5,581,656, #5,517,511, #5,491,772, #5,247,579, #5,226,084 and #5,195,166.

本製品は、防水構造ではありませんので、雨水などでぬれやすい場所では使用できません。

標準構成品

本製品には、下記のものを同梱しています。

① DC電源ケーブル …… 1
② マイクロホン(HM-187)…… 1
③ モービルブラケット…… 1
④ ヒューズ(FGB 5A) …… 2
⑤ モービルブラケット取り付けネジ一式…… 1セット
⑥ マイクハンガー …… 1セット
⑦ DC電源ケーブル用圧着端子…… 2
⑧ 外部スピーカー用プラグ…… 1
取扱説明書、保証書、愛用者カード……各1



運用上のご注意

◎安全運転のため、走行中にマイクロホンを操作しないでください。操作する場合は、必ず安全な場所に停車させてください。
◎安全運転に必要な外部の音が聞こえない状態で車両を運転しないでください。
◎エアバッグシステム装備車に無線機本体、マイクロホン、および別売品(アンテナ、スタンドなど)を取り付けるときは、このシステムの動作に影響をおよぼす取り付けかたはしないでください。
◎本製品をハイブリッドカーでご使用になる場合、ハイブリッドカーに搭載されているインバーターからのノイズの影響を受けて、正常に受信できないことがあります。
◎本体および別売品を取りつける場合、安全運転に支障がないように(ケーブルなどが絡まらないように)配線してください。
◎車に無線機本体、マイクロホン、および別売品(アンテナ、スタンドなど)を取り付けるときは、前方の視界を妨げる場所や運転操作を妨げる場所など運転に支障をきたす場所、同乗者に危険を及ぼす場所などには絶対に取り付けないでください。交通事故やけがの原因になります。

放熱について

トランシーバーは長時間送信すると、放熱部の温度がかなり高くなります。
室内で運用する場合は、特に子供や周囲の人が放熱部に触れないようにご注意ください。
また、トランシーバーはできるだけ風通しのよい、放熱の妨げにならない場所を選んで設置してください。

はじめに

自動車に取り付け時のご注意

◎アンテナの同軸ケーブルからは電波がふく射されるので、コンピュータ(コントロールユニット)およびハーネスから遠ざけ、ハーネスと交差する場合は、ハーネスと直角になるように取り付けてください。
◎車のコンピュータ(コントロールユニット)に影響をおよぼさないようにするため、無線機、アンテナ、同軸ケーブルなどは次のような電波障害留意機器より20cm以上はなして取り付けてください。

●エンジン関係　:ECI/キャブレター /エンジンコントロールユニット(ガソリン車)、グローコントロールユニット(ディーゼル車)
●トランスミッション関係
:オートマチック/マニュアルミッション/4WDコントロールユニット
●シャーシ関係　:ECS/EPS/ABS/ETACS/フルオートエアコン/オートヒーターコントロールユニット/Gセンサー

電波法上のご注意

◎本製品は電波法に基づいて、特定無線設備の工事設計についての認証(技術基準適合証明)を取得した業務用無線電話装置です。これは簡単な手続きにより無線送受信機を使っていただくために定められたもので、無線機本体を容易に分解できない構造になっています。ご自分で分解や改造をしないでください。
◎通信は免許状に記載されている範囲内で通信してください。
◎特に他局の通信を妨害したり、通話の内容を他に漏らし、これを窃用することは、かたく禁じられています。
◎免許の有効期限は、免許を取得した日から5年間です。再免許の申請は、免許の切れる6 ヵ月前から3 ヵ月前の間に手続きをしてください。

その他取り扱い上のご注意

◎本製品は、厳重な品質管理のもとに、生産･出荷されていますが、万一ご不審な点、お気づきの点などがございましたら、できるだけ早く、お買い求めいただいた販売店、または弊社サポートセンターへお申し付けください。
◎本製品の仕様は、日本国内向けとなっていますので、海外では使用できません。
◎電源を接続する前に、必ずこの取扱説明書をよく読んで、電源電圧を確認してください。
◎本書の著作権およびハードウェアに関する知的財産権は、すべてアイコム株式会社に帰属します。
◎本書の内容の一部または全部を無断で複写/転用することは、禁止されています。
◎本製品の仕様、外観、その他の内容については、改良のため予告なく変更されることがあり、本書の記載とは一部異なる場合があります。
◎本製品の故障、誤動作、不具合あるいは停電などの外部要因により、通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、弊社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
◎テレビ･ラジオなどのAV機器や、携帯電話などの電子機器を近くで使用すると、電波障害を受けることがありますので、はなれてご使用ください。
◎直射日光のあたる場所に、長時間放置しないでください。炎天下では、車内の温度が極端に上昇し、本機に悪影響を与えます。また、真冬は、ある程度車内の温度を上げてからご使用ください。
◎車載運用では、バッテリー保護のためにも、一日の使用が終わったときは、必ず本機の電源を“OFF”にしてください。

もくじ

はじめに ii
取扱説明書の内容について ii
登録商標/著作権について ii
本製品の概要について ii
標準構成品 iii
もくじ v
安全上のご注意 vi
1 各部の名称と機能 1
■ 無線機本体 1
■ マイクロホン 1
■ 表示部 3
2 交信のしかた 4
1 電源を入れる 4
2 音量を調整する 4
3 相手局を選択する 5
4 呼び出しをする 7
■ アンサーバック機能について 7
5 呼び出しを受ける 8
■ 着信表示 8
6 交信する 9
■ 正しい通話方法 9
■ 交信時のアドバイス 10
1.マイクロホンの使いかた 10
2.個別呼び出しについて 10
3.相手局から応答がないときは 10
4.交信する場所について 10
3 そのほかの機能について 11
■ ロック機能 11
■ モニター機能 11
■ Pベル機能 11
■ ポケットビープ機能 11
■ 送信出力切り替え 11
■ デジタルモードとアナログモードについて 12
■ ショートメッセージ機能(デジタルモードのみ) 13
■ 緊急呼び出し機能(エマージェンシー) 13
【呼び出しのしかた】 14
【呼び出しを受けたときは】 14
4 セットモードについて 15
■「セットモード」に移行するには 15
■ 設定項目について 15
❶ P ベル機能の設定 15
❷ スケルチレベルの設定 16
❸ マイクゲインの設定 16
❹ 発着信履歴消去設定 16
❺ 外部スピーカーの設定 16
5 設置と接続について 17
■ 設置のしかた 17
◇ 基地局として設置する 17
◇ 移動局として設置する 17
◇ 車内への取り付けかた 18
◇ 車内への取り付け例 18
■ 電源の接続 19
■ マイクロホンの接続のしかた 20
■ 外部スピーカー用プラグについて 20
■ マイクハンガーの取り付けかた 20
■ アンテナについて 20
6 保守について 21
■ ヒューズの交換について 21
■ 無線機の清掃について 21
■ 故障かな？と思ったら 21
■ 故障のときは 22
7 別売品一覧 23
■ 別売品についてのご注意 23

安全上のご注意

安全にお使いいただくために、必ずお読みください。

◎ここに示した注意事項は、使用者および周囲の人への危害や財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。
◎次の『⚠危険』『⚠警告』『⚠注意』の内容をよく理解してから本文をお読みください。
◎お読みになったあとは、いつでも読める場所へ大切に保管してください。

⚠ 危険

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。

◎**引火性ガスの発生する場所では絶対に使用しないでください。**
引火、火災、爆発の原因になります。
◎**自動車などの運転中は、マイクロホンを操作しないでください。**
交通事故の原因になります。

⚠ 警告

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

◎**電子機器の近く(特に医療機器のある病院内)では絶対に使用しないでください。**
電波障害により電子機器が誤動作、故障する原因になりますので、電源を切ってください。
◎**民間航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、これらの関連施設周辺では絶対に使用しないでください。**
交通の安全や無線局の運用などに支障をきたす原因になります。
運用が必要な場合は、使用する区域の管理者から許可が得られるまで電源を入れないでください。
◎**煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用しないでください。**
そのまま使用すると、火災、感電、故障の原因になります。
すぐに電源を切り、煙が出なくなるのを確認してからお買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。
◎**マイクロホンのケーブルを持って、マイクロホンを振り回したり、投げたりしないでください。**
本人やほかの人に当たり、けがや故障、および破損の原因になります。
◎**DC電源ケーブルを接続するときは、プラス⊕とマイナス⊖の極性を間違えないように十分注意してください。**
火災、感電、故障の原因になります。

⚠ 警告 下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

◎DC電源ケーブルのヒューズホルダーを絶対に切断しないでください。
ショートして発火、火災などの原因になります。

◎指定(卓上電源装置(PS-230A)、12Vバッテリー、24Vバッテリー)以外の電源を使用しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。

◎DC電源ケーブル、卓上電源装置の電源ケーブルを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、加熱しないでください。
ショートして発火の原因になるおそれがあります。

◎DC電源ケーブルが傷ついている場合や、接続がゆるい場合は使用しないでください。
ショートして発火の原因になるおそれがあります。

◎長時間使用しないときは、バッテリーや卓上電源装置からDC電源ケーブルまたは電源ケーブルを抜いてください。
発熱、火災の原因になります。

◎雷が鳴り出したら、機器やアンテナ線、DC電源ケーブル、卓上電源装置の電源ケーブルには、絶対にさわらないでください。
感電事故の原因になるおそれがあります。

◎DC電源コネクターまたは卓上電源装置の電源ケーブルにホコリが付着したまま使用しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。

⚠ 警告 下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

◎電源ケーブルや接続ケーブルの上に重いものを載せたり、挟んだりしないでください。
火災、感電、故障の原因になります。

◎指定以外のヒューズを使用しないでください。
火災、故障の原因になります。

◎付属または指定以外のDC電源ケーブルを使用しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。

◎この製品は完全調整していますので、分解、改造しないでください。また、ご自分で修理しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。

◎赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所で使用、保管してください。
発熱、感電、けが、故障の原因になります。

◎線材のような金属物を入れたり、水につけたりしないでください。
火災、感電、故障の原因になります。

◎車を運転中は、大きな音量で使用しないでください。
踏切の警報や他の車のクラクション、その他の警報が聞きとれず、交通事故の原因になるおそれがあります。

⚠ 注意 下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害だけの発生が想定される内容」を示しています。

◎**ぬれた手でDC電源コネクター、卓上電源装置の電源ケーブル、または機器に絶対触れないでください。**
感電の原因になることがあります。

◎**各コネクター部に金属片やゴミを付着させないでください。**
ショートして発火の原因になるおそれがあります。

◎**直射日光のあたる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所には設置しないでください。**
変形、変色、火災、故障の原因になることがあります。

◎**清掃するときは、シンナーやベンジンを絶対に使用しないでください。**
ケースが変質したり、塗料がはがれたりする原因になることがあります。
普段はやわらかい布で、汚れのひどいときは水で薄めた中性洗剤を少し含ませてふいてください。

◎**本製品を落としたり、強い衝撃を与えたりしないでください。**
けが、故障の原因になることがあります。

◎**ぐらついた台の上や傾いたり、振動が多かったりする場所に設置しないでください。**
落ちたり、倒れたりして火災、けが、故障の原因になることがあります。

◎**本製品の上に乗ったり、物を置いたりしないでください。**
落ちたり、倒れたりして、けが、故障の原因になることがあります。

⚠ 注意 下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害だけの発生が想定される内容」を示しています。

◎**マイクロホン、および別売品を接続するときは、付属または指定以外のマイクロホンおよび別売品を使用しないでください。**
故障の原因になることがあります。

◎**テレビやラジオの近くで送信しないでください。**
電波障害を与えたり、受けたりする原因になることがあります。

◎**容易に人が触れることができる場所にアンテナを設置しないでください。**
送信中のアンテナは高電圧になることがあるため、感電、けが、故障の原因になることがあります。

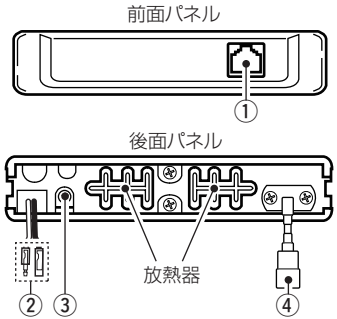
◎**周囲の人が放熱器に触れないようにご注意ください。**
火傷のおそれがあります。

◎**DC電源ケーブルや卓上電源装置の電源ケーブル、接続ケーブルを抜き差しするときは、必ずプラグの部分を持って行ってください。**
感電やショートして発火の原因になるおそれがあります。

◎**インバーター内蔵の電子機器の周辺で使用しないでください。**
電波障害を与えたり、受けたりする原因になることがあります。

◎**長時間使用すると、無線機本体後面の放熱器の温度が高くなりますので、放熱器を触らないでください。**
やけどすることがあります。

■ 無線機本体



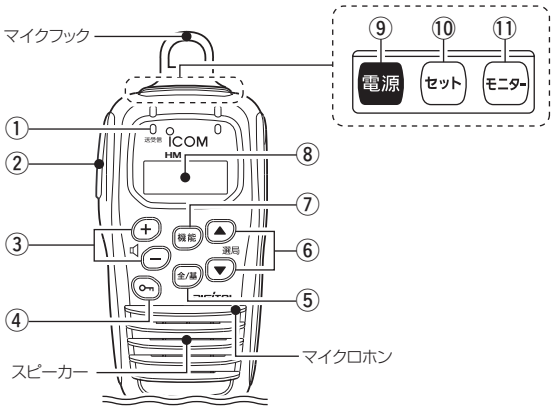
①マイクジャック(☞P20)
付属のマイクロホン(HM-187)を接続します。

②DC電源コネクター (動作範囲:DC12V ～ 24V)
(☞P17、P19)
付属品のDC電源ケーブルを使用して、車載バッテリー(DC12V/DC24V)または別売品の卓上電源装置(PS-230A)に接続します。

③外部スピーカージャック(☞P20、P23)
別売品の外部スピーカー (SP-10)または別売品の卓上電源装置(PS-230A)を接続します。
インピーダンスは4Ωです。

④アンテナコネクター (☞P20)
アンテナを接続するM型コネクターです。
インピーダンス50Ωのアンテナを接続します。

■ マイクロホン



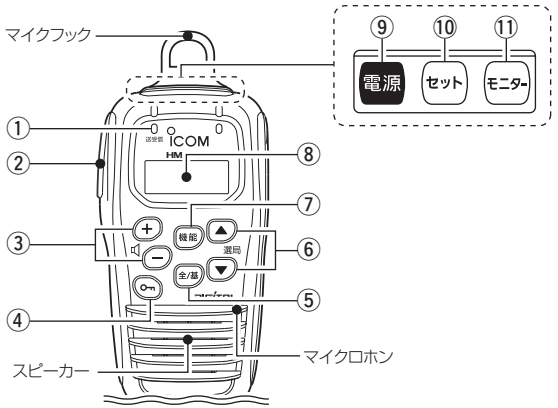
① [送受信]ランプ
交信の状態を示します。
●送信:赤色(点灯)
●受信:緑色(点灯)
●着信:橙色(点滅)

② [PTT]スイッチ(☞P7 ～ P10)
押すと送信状態、はなすと受信状態に切り替わります。

(☞ 次のページにつづく)

1 各部の名称と機能

■ マイクロホン(つづき)



③ 音量([＋]/[－])スイッチ(☞P4)

- [＋]を押すと音量が大きくなり、[－]を押すと音量が小さくなります。音量は0～32のあいだで調整できます。
- [＋]/[－]を押し続けると、連続動作します。

④ ロック([🔑])スイッチ(☞P11)

長く押すごとに、ロック機能を「ON」/「OFF」します。

⑤ [全/基]スイッチ(☞P6)

押すごとに、「全体」→「基地」→「個別」の順番に呼び出せる局を切り替えます。

※個別呼び出し機能が設定されていない場合や、デジタルトーンスケルチが設定されている場合は、スイッチ操作は無効になります。

⑥ 選局([▲]/[▼])スイッチ

- 押すごとにチャンネルが切り替わります。(☞P5)
- セットモード時は押すごとに設定値が切り替わります。(☞P15)

※個別呼び出し機能が設定されている場合は、**[機能]**スイッチや**[全/基]**スイッチを操作して表示された内容が切り替わります。

⑦ [機能]スイッチ(☞P5)

短く押すごとに、「通話チャンネル番号」→「個別(相手局)番号」*の順番に表示が切り替わります。

★個別呼び出し機能が設定されていない場合、「個別(相手局)番号」は、表示しません。

⑧ 表示部(☞P3)

運用状態を表示します。

⑨ [電源]スイッチ(☞P4)

長く押すごとに、電源がON/OFFします。

⑩ [セット]スイッチ(☞P15)

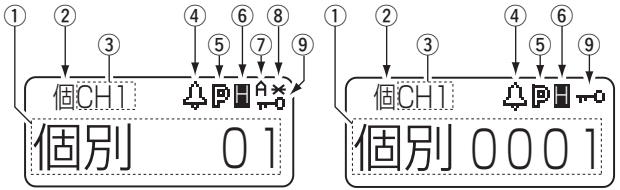
押すごとに、セットモードに移行/解除します。

⑪ [モニター]スイッチ(☞P11)

モニター機能が設定されている場合、押しているあいだモニター機能が動作します。

※通常は使用しませんが、他局が呼び出し機能で交信するのを受信したり、交信相手局の信号が弱かったり、途切れたりして聞こえにくいときや、ノイズを聞きながら音量調整するときに、モニター機能を動作させます。

■ 表示部



アナログモードの表示
(個別呼び出しが2桁仕様の表示)

デジタルモードの表示

① [相手局番号/設定内容]表示

設定により、通話チャンネル番号、個別(相手局)番号を表示します。

また、[＋]/[－]スイッチを押すと、音量(0～32)を表示します。

※通話チャンネル番号表示の代わりとして設定されている漢字(例:防災01)やアルファベットを表示します。
また、呼び出し「個別番号(個別)/基地局番号(基地)/全体呼び出し(全体)」の選択状態を表示します。

② モード表示

- 運用中の[個](個別)/[全](全体)/[基](基地)/[グ](グループ)の各モードを表示します。
- グループメンバー時は[メ]が白黒反転表示します(デジタルモードのみ)。

[電源]スイッチ(電源をONにした時は点灯)、[PTT]スイッチ以外の操作をしたとき、表示部の照明が約5秒間点灯します。

③ ガイドメッセージ表示

- 通話チャンネルが漢字やアルファベット表示(①の部分)に設定されているとき表示します。
- セットモード時に「SET」が、ショートメッセージ選択画面時に「メッセージ」が表示します。
- 秘話設定時は[CH]が白黒反転表示します(デジタルモードのみ)。

④ (ベル) (☞P8、P11)

- 個別呼び出し(着信)を受けたとき点滅します。(☞P8)
- ポケットビープ機能(☞P11)を「ON」に設定したとき表示します。

⑤ (Pベル機能) (☞P11)

Pベル機能を「ON」に設定したとき表示します。

⑥ H/L(送信出力) (☞P11)

各通話チャンネルの送信出力設定(High/Low)を表示します。

H:ハイパワー (5W)選択時に表示
L:ローパワー (1W)選択時に表示

⑦ (アナログモード) (☞P12)

アナログモード選択時に表示します。

⑧ (コンパンダ機能)

コンパンダ機能が設定されているとき点灯します(アナログモードのみ)。

⑨ (ロック機能) (☞P11)

ロック機能を「ON」に設定したとき表示します。

2 交信のしかた

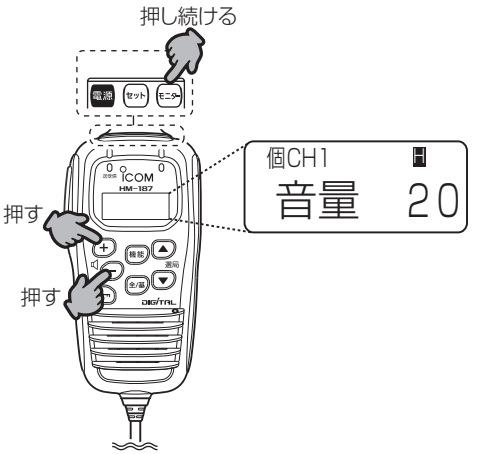
1 電源を入れる

[電源]スイッチを長く押して、電源を入れます。
電源を入れると、ビープ音が**「ピー」**と鳴って、起動コメントを表示します**(設定時のみ)**。
※個別呼び出し機能が設定されている場合は、自局番号を表示します。

例:自局番号表示

2 音量を調整する

相手局の音声が大きすぎたり、小さすぎたりしたときは、**[＋]/[－]**スイッチを押して聞きやすい音量に調整します。
モニター機能が設定されている場合、何も音が出ていない状態での音量調整は、**[モニター]**スイッチを押して「ザー」という雑音を出し、この雑音を聞きながら調整します。
※モニター機能が動作している間、**[送受信]**ランプが緑色に点灯します。
調整後は、**[モニター]**スイッチをはなします。



【ご参考】アナログチャンネルをお使いの場合、受信する相手局の信号レベルに応じて、スケルチレベルを調整できます。(☞P16)

3 相手局を選択する

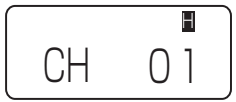
個別呼び出し機能で相手局を呼び出すときは、あらかじめ**「通話チャンネル番号」**と**「個別(相手局)番号」**を選択します。

Step1.通話チャンネル番号の選択

交信するすべての局は、同じチャンネルに設定してください。

●「チャンネル」表示から選択する場合

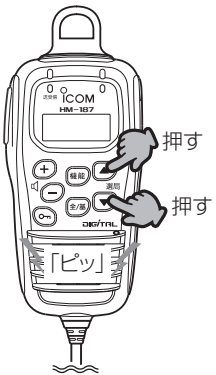
選局(**[▲]/[▼]**)スイッチを押すごとに、チャンネルがアップ/ダウンします。



[通話チャンネル番号]表示

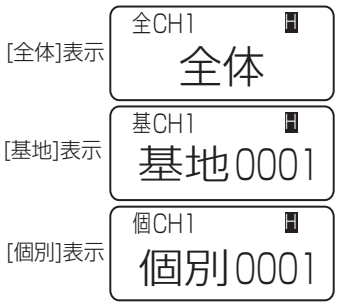
2チャンネルを選択したとき

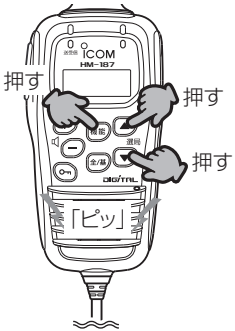
チャンネル名称表示



●「全体」/「基地」/「個別」表示から選択する場合

下記の表示(☞P6)から通話チャンネル番号を選択する操作です。

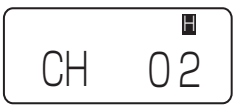




① **[機能]**スイッチを押します(「通話チャンネル」を表示します)。

[通話チャンネル番号]表示

② **[▲]/[▼]**スイッチを押して、「通話チャンネル番号」を選択します。



2チャンネルを選択したとき

チャンネル名称表示

※**[機能]**スイッチを押すごとに、「通話チャンネル」表示と「個別(相手局)番号」表示が切り替わります。

(☞ 次のページにつづく)

3 相手局を選択する(つづき)

Step2.「全体」/「基地局番号」/「個別番号」表示の選択

〈相手局番号の表示について〉

次の4種類があり、呼び出す相手を指定(個別呼び出し機能を使用)するときの番号を表示します。

●全体呼び出し(全体)

一斉に全局を呼び出します。

●基地局呼び出し(出荷時の設定:基地 0099)

「0001」～「9999」のうち基地局に指定された1局を呼び出します。

●個別呼び出し(出荷時の設定:個別 0001)

「0001」～「9999」のうち選択された1局を呼び出します。

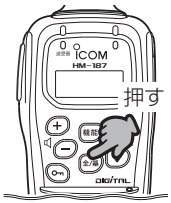
●グループ呼び出し

あらかじめ設定されたID(0001～9999)と一致する相手局を一斉に呼び出します。

※IDの設定変更については、お買い上げの販売店にご依頼ください。

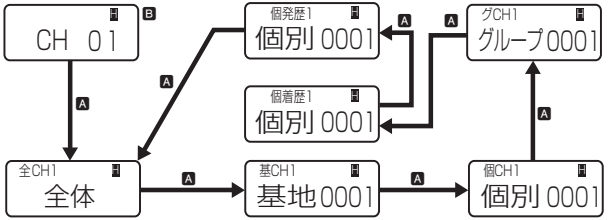
[全/基]スイッチを押すごとに、**「全体呼び出し(全体)」→「基地局呼び出し」→「個別(グループ)呼び出し」→「着信履歴」→「発信履歴」**の順番に切り替わります。

※「全体」/「基地局番号」表示を選択したときは、**「4 呼び出しをする」**(☞P7)の操作に進みます。



〈表示の流れ〉

※「着信履歴」、「発信履歴」はデジタルモードの機能でアナログモードにはありません。

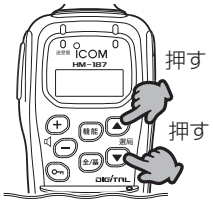


A [全/基]スイッチを押す
B [機能]スイッチを押すと、チャンネル表示に戻る

Step3.「個別番号」の選択

[▲]/[▼]スイッチを押します。

※Step2.の「全体呼び出し」/「基地局呼び出し」表示の状態でも、**[▲]/[▼]**スイッチを押すと個別番号が選択できます。



4 呼び出しをする

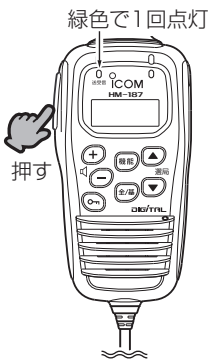
【ご注意】
ほかに通信する無線局がないことを確認(**[送受信]**ランプが緑色に点灯していないなど)**してから呼び出してください。**

[PTT]スイッチを押すと、**[送受信]**ランプが赤色に点灯します。**[PTT]**スイッチを押しながら、マイクロホンに向かって
『こちらは××局です。
○○さんどうぞ。』
と呼びかけたら、**[PTT]**スイッチをはなします。

■ アンサーバック機能について

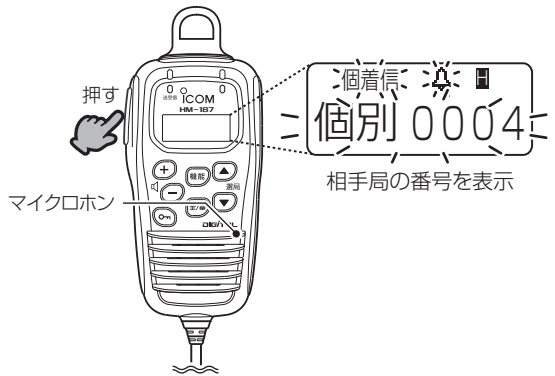
(アナログモードの「3桁設定(呼出コード)」、「デジタルトーンスケルチ」以外に該当)

個別呼び出し機能が設定された無線機は、アンサーバック機能が設定されていると、相手局が通信圏内にあるかどうかを確認できます。
確認するときは、信号を受信していない状態で**[PTT]**スイッチを短く押します。
相手局が通話圏内の場合、ビープ音が1回だけ**「ピッ」**(**[送受信]**ランプが緑色で1回点灯)と鳴ります。



5 呼び出しを受ける

個別呼び出しを受けたときだけ、🔔(ベル)表示、相手局の個別番号、「個着信」が点滅します。
その状態で**[PTT]**スイッチを押しながら、マイクロホンに向かって
『**こちらは○○局です。**
××さんどうぞ。』
と応答します。



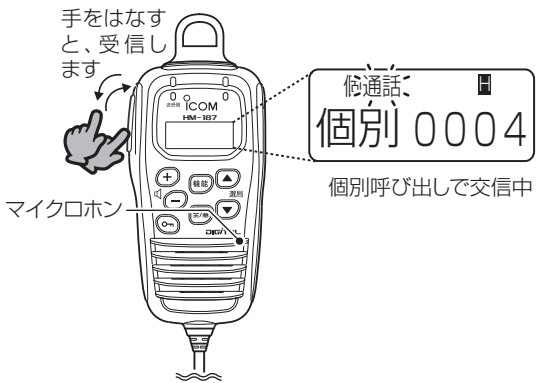
[PTT]スイッチから手をはなしたあと、**[全/基]**スイッチを押すと、点滅が停止して**[▲]**/**[▼]**スイッチを操作できます。
※アナログ3桁設定時の「– – – – – –」表示は、個別呼び出しを意味します。

■ 着信表示

「着信表示」が設定されていると、個別呼び出しを受けたときだけ、**[送受信]**ランプが橙色に点滅します。
[モニター]または**[全/基]**スイッチを押すと、点滅が停止します。

6 交信する

相手局から呼び出しを受けた状態(☞P8)から、送信と受信を交互に繰り返すと、交信できます。
※双方同時に送信しても、交信できません。
※送信の終わりに『どうぞ』と言葉を添えると、スムーズに交信できます。



交信中は、「通話」表示を点滅します。
再度相手局を呼び出すときは、呼び出しをする前の表示に戻ってから[PTT]スイッチを押します。
※送信中は音量を変更できません。

■ 正しい通話方法

次の要領で通話をしてください。
用件は簡潔に話し、長い通話はさけてください。

呼び出し	「相手局の呼び出し名称」	3回以下
	「こちらは」	1回
	「自局の呼び出し名称」	3回以下
	「どうぞ」	1回
応答	「相手局の呼び出し名称」	3回以下
	「こちらは」	1回
	「自局の呼び出し名称」	1回
	「どうぞ」	1回

■ 交信時のアドバイス

1.マイクロホンの使いかた

- マイクロホンに向かって話すときは、マイクロホンと口元を約5cmはなし、普通に会話する大きさの声で通話してください。
  マイクロホンを口元に近づけすぎたり、大きな声を出したりすると、明りょう度が悪くなることがありますのでご注意ください。
- **[PTT]**スイッチを押すと、**[送受信]**ランプが赤色に点灯します。
  そのあとマイクロホンに向かって話してください。

2.個別呼び出しについて

個別呼び出しをするときは、「通話チャンネル番号」(☞P5)と「個別番号」(☞P6)を相手局と同じ設定にしてください。

3.相手局から応答がないときは

相手が無線機からはなれている場合や、電波を受信できない場所に移動したなどの理由で応答がないときは、相手局番号の点滅表示が消えてから、**[PTT]**スイッチを押しなおすと、何回でも基地局、または個別呼び出しができます。

個別呼び出しをしたとき

4.交信する場所について

周囲の状況(天候、山や建物などの障害物)により、受信しにくくなることがあります。
そのときは、場所を少し移動して交信してください。
テレビ・ラジオなどのAV機器や、携帯電話などの電子機器を近くで使用すると、電波障害を受けることがありますので、はなれてご使用ください。

■ ロック機能

不用意に[全/基]スイッチや[機能]スイッチ、[＋]/[－]スイッチにふれても、個別番号や表示が変わらないようにする機能です。
それ以外のスイッチは操作できます。
[🔑**]**スイッチを長く押すと**「ピピッ」**と鳴って、表示部に「🔑」が点灯します。
同じ操作をすると、ロック機能を解除します。

■ モニター機能

スケルチを一時的に開く機能です。
受信信号の強度が弱いときなどに使用すると便利です。
[モニター]スイッチを押すと、モニター機能が有効になります。**[モニター]**スイッチをはなすと、モニター機能を解除します。
※設定により、動作が異なる場合があります。
※設定はお買い上げの販売店にご依頼ください。

■ Pベル機能

呼び出し音を鳴らしたくないときに便利な機能です。
Pベル機能をONにすると、全体呼び出し、グループ呼び出し、個別呼び出しのいずれかの着信があった場合でも、スケルチを閉じます。
Pベル機能がONに設定されているときは、表示部に「P」が点灯します。
[PTT]スイッチを押すと、スケルチが開き、音が聞こえます。

■ ポケットビープ機能

着信したとき、ビープ音を鳴らして着信を知らせる機能です
待ち受け状態ではベルマーク「🔔」を点灯します。
着信があると、ポケットビープを鳴らし、ベルマークが点滅します。
※設定はお買い上げの販売店にご依頼ください。

■ 送信出力切り替え

[全/基]スイッチを長く押すごとに、送信出力をハイパワー(5W)、ローパワー(1W)を切り替えます。
ハイパワー選択時は「H」が、ローパワー選択時は「L」が点灯します。
※設定により、動作が異なる場合があります。
※設定はお買い上げの販売店にご依頼ください。

■ デジタルモードとアナログモードについて

本機はデジタルモードとアナログモードがあります。

◎**デジタルモード**は、クリアな音質で通信できるモードです。
また、ショートメッセージ(☞P13)を送信できます。
弊社製携帯型デジタル簡易無線機(IC-DU55C)と組み合わせて使用すると、簡易なデジタル無線システムを構築できます。

◎**アナログモード**は、弊社製の業務用無線機(IC-UH35CTM、IC-UH37CTM)と交信できます。
従来のシステムと併用する場合に有効なモードです。
アナログモード選択時は表示部に「A」が点灯します。

本機は用途に合わせてデジタルモード専用、アナログモード専用、デジタル/アナログ混在モードに設定できます。
設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

右表は各モードの個別呼び出しの比較表です。

各モードの個別呼び出し比較表

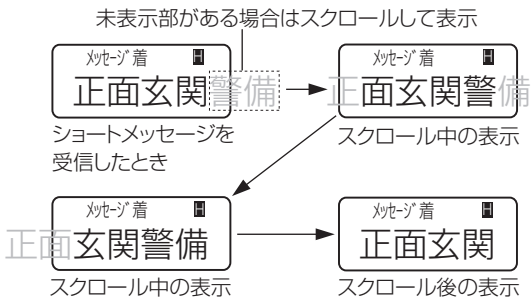
モード	アナログ (2桁)	アナログ (3桁)	デジタル
個別番号桁数	2桁	3桁	4桁
発信者名表示	個別着信時、発信者名表示	なし	個別着信時、発信者名表示 全体/グループ着信時は、全体/グループ名を表示
グループ識別	ワイルドカード	ワイルドカード	グループID
複数グループに参加	不可	不可	可
不在着信時の着信保持	可	不可	可
アンサーバック	可	不可	可
レイトエントリー*	不可	不可	可

*選択呼び出し付きの送信信号を途中からでも受信、選択傍受できる機能。

■ ショートメッセージ機能 (デジタルモードのみ)

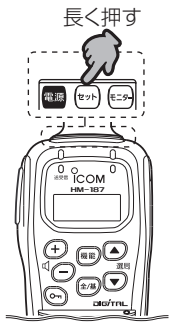
デジタルモードでは、ショートメッセージを送信できます。
ショートメッセージ送信が設定されていると、**[PTT]**スイッチを押して送信するごとに、設定されたショートメッセージを送信します。
※設定はお買い上げの販売店にご依頼ください。
※操作のしかたはお買い上げの販売店にお問い合わせください。
※受信側では、受信したメッセージをスクロール表示します。
※**[▲]**、**[▼]**、**[機能]**スイッチを押すと、受信したメッセージを再度スクロール表示します。
※**[全/基]**スイッチを押すと、メッセージ表示を解除します。

(例)「正面玄関警備」のメッセージを受信したとき



■ 緊急呼び出し機能(エマージェンシー)

迅速な連絡が必要な場合、通話チャンネルが一致する局に、緊急信号を送出して相手に警告音でお知らせします。



[セット]スイッチを押しつづけると、緊急呼び出し機能が動作します。
※緊急呼び出しを終了する場合は、電源を入れなおしてください。
※設定により、操作が異なる場合があります。
※設定は販売店にご依頼ください。
※個別呼び出し機能と緊急呼び出し機能の両方が送信側と受信側に設定されていない無線機は、相手局を呼び出しできません。
※あらかじめ設定されたIDと一致する相手局にだけ、緊急呼び出しを**します。**
※緊急呼び出しやその呼び出しを受けているあいだは、**[モニター]**スイッチ以外は操作できません。
※下記のような環境や本製品の設定状況では、通知できなかったり、通知しても警告音が鳴らない場合があります。
◎警告音が音量調整と連動して変化する場合
◎警告音を鳴らさない設定がされている場合
◎電波状況の悪化により電波が届かない場合

3 そのほかの機能について

⚠ 警告

緊急呼び出し機能(エマージェンシー)は、大きな音量の警告音が連続で鳴ります。
本製品にヘッドセットやイヤホンを取り付けて、緊急呼び出し機能を有効に設定する場合は、警告音の音量と[+]/[－]スイッチが連動するように設定されることをおすすめします。
設定は販売店にご依頼ください。

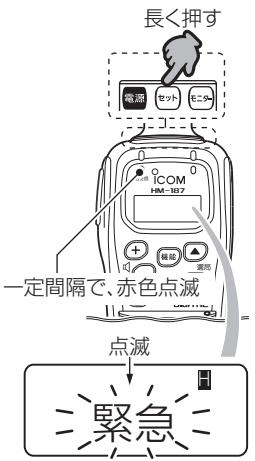
【呼び出しのしかた】

下記の操作をする前に、相手と同じ[通話チャンネル]が選択(☞P8～P11)されていることを確認してください。

① **[セット]**スイッチを長く押します。
- ●警告音が**「ピピピ・・・」**と鳴って、一定の間隔ごとに**[送受信]**ランプが赤色に点灯します。
  また、「緊急」表示が点滅します。

② その状態で、相手局から応答があるのを待ちます。
- ●応答があると、警告音が停止して、**[送受信]**ランプが緑色に点灯します。

③ 交信をつづけます。
- ●終話すると、「緊急」表示の点滅を停止し、緊急呼び出しをする前の状態に戻ります。



【呼び出しを受けたときは】

① 警告音が**「ピピピ・・・」**と鳴って、**[送受信]**ランプが赤色に点滅します。
また、「緊急」表示、**「着信」**表示が点滅します。

② **[PTT]**スイッチを押して、応答します。
- ●警告音が停止します。

③ 交信をつづけます。
- ●終話すると、「緊急」表示の点滅を停止し、緊急呼び出しを受ける前の状態に戻ります。

お好みの運用状況に応じて、設定項目を「セットモード」から変更できます。

【ご注意】設定により、設定できる項目が異なる場合があります。

■「セットモード」に移行するには

①本製品の電源がONの状態で、**[セット]**スイッチを押すと、**「セットモード」**に移行します。

●ビープ音が**「ピピッ」**と鳴って、**「SET」**を表示したあと、設定項目を表示します。

セットモード移行時

設定項目を表示

②項目の選択は、**[全/基]**または**[機能]**スイッチを押すごとに、下記の項目が**切り替わります。**

※項目は設定により異なる場合があります。

「❶Pベル」「❷スケルチ*1」「❸マイクゲイン」

「❹発着信履歴消去*2」「❺外部スピーカーの設定」

*1アナログモードのみ表示

*2「呼び出し設定」がONの場合のみ表示

③設定内容の変更は、**[▲]/[▼]**スイッチを押します。

④**[セット]**スイッチを押すと、変更内容を確定して、**「セットモード」**を解除します。

※ほかの設定項目に移動(手順②)後、電源を切った場合も、設定内容を確定して**「セットモード」**が解除されます。

※**「セットモード」**を解除するまで通話できません。

電源を入れなおしてから通話を確認してください。

■ 設定項目について

❶ Pベル機能の設定(出荷時の設定:OFF)

Pベル機能を設定します。

Pベル機能を使用すると、呼び出し(全体/個別/グループ)を受けたとき、応答するまで相手の音声をミュート(聞こえないように)します。

- **OFF** :着信と同時に、相手の音声が聞こえる
- **BON** :応答するまで相手の音声をミュートし、**音声のミュートと同**時に、呼び出しを受けたことをブザー (ピー音、3回)で知らせる
- **BOF** :応答するまで相手の音声をミュートし、ブザーを鳴らさない

【BON、BOFに設定した場合】

※無線機の表示部には、Pを表示します。

※お買上げ時、ブザー出力が「BON」に設定されている無線機は、音声のミュートと同時に、呼び出しを受けたことをブザー (ピー音、3回)でお知らせします。

ポケットビープが設定されている無線機は、このブザーが鳴ったあと、つづけて鳴ります。

また、ブザー出力が「BOF」に設定されている無線機は、ブザー、ポケットビープの両方とも鳴りません。

4 セットモードについて

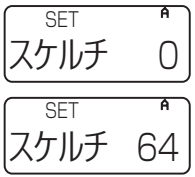
■ 設定項目について(つづき)

❷ スケルチレベルの設定(出荷時の設定:10)

<アナログモードのみ>

スケルチレベルを設定します。
受信する相手局の信号レベルに応じて、スケルチレベルを調整できます。

- 選択範囲:0(浅い) ～ 64(深い)



❸ マイクゲインの設定(出荷時の設定:MID)

マイクゲインを設定します。

- **LOW** :マイクゲインを低にする
- **MID** :マイクゲインを中にする
- **HI** :マイクゲインを高にする

[ご参考]

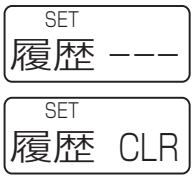
※マイクゲインをLOWにすると、周囲の雑音など、小さな音を抑えることができます。

※マイクゲインをHIにすると、小さな声でも通話できますが、周囲の雑音や騒音なども相手に聞こえることがあります。

❹ 発着信履歴消去設定(出荷時の設定:－－－)

個別番号設定を変更したとき、この機能で発着信履歴を削除してください。

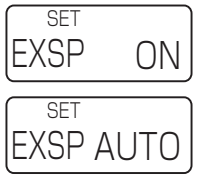
- －－－ :何もしない
- **CLR** :履歴を削除する



❺ 外部スピーカーの設定(出荷時の設定:ON)

外部スピーカー接続時にマイクロホン(HM-187)のスピーカーから音を出すか出さないかを設定します。

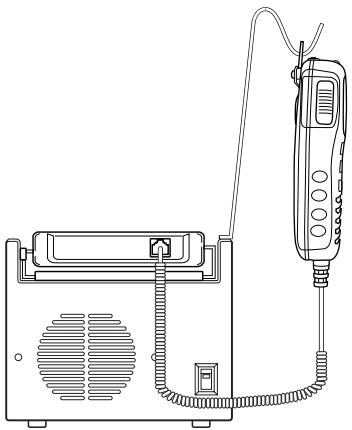
- **ON** :外部スピーカーを接続しても、マイクロホン(HM-187)からも音が聞こえる
- **AUTO** :外部スピーカーを接続すると、マイクロホン(HM-187)からは音が聞こえない



■ 設置のしかた

◇基地局として設置する

屋内で、基地局として運用するときは、別売品の卓上電源装置(PS-230A)をご利用ください。
取り付けおよび接続方法については、別売品に付属する取扱説明書をお読みください。



◇移動局として設置する

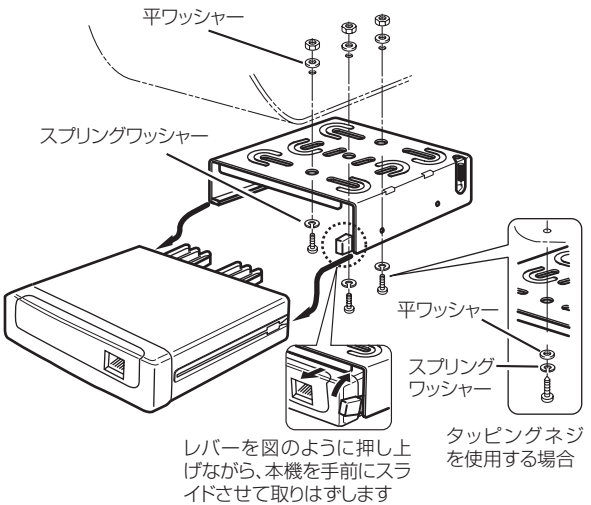
自動車で、移動局としての設置するときは、次のことにご注意ください。

- 直射日光が長時間あたる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所には、できるだけ設置しないでください。
- 安全運転に支障のない場所を選んでください。
- 車内への取り付けかた、取り付け例は次のページをご覧ください。

■ 設置のしかた(つづき)

◇車内への取り付けかた

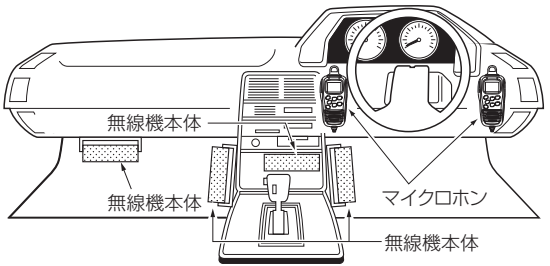
1. 付属品の取り付け金具を利用して、下図のようにダッシュボードなどに、付属品のタッピンネジで取り付けます。
2. 取り付け金具のガイド部分に、本体両サイドにある溝を合わせ、本機をスライドさせて固定します。
3. 本機を取りはずすときは、右側のレバーを図のように押し上げながら、本機を手前にスライドさせてください。



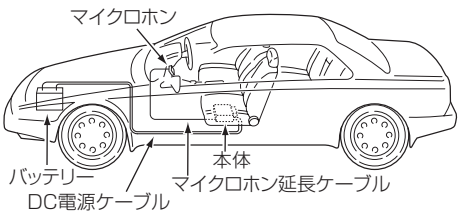
◇車内への取り付け例

下図を参考に、運転に支障がない場所を選んでください。

●マイクロホン/本体の設置例



●セパレートの設置例



※ マイクロホンは直射日光のあたらない場所に設置してください。

■ 電源の接続

電源は車のバッテリー (12V/24V)に、直接付属のDC電源ケーブルで接続してください。

①かためのの針金をエンジンルームからグロメットを貫通させて車内に引き込みます。
②針金にDC電源ケーブルをからませ、針金の先端をペンチなどで曲げ、テープを巻いてエンジンルームへ引き込みます。
③DC電源ケーブルは赤色が“⊕”プラス側、黒色が“⊖”マイナス側になっていますので、間違えないようにバッテリー端子に取り付けます。

⚠警告【DC電源ケーブルについて】

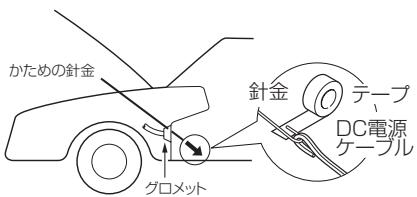
- **DC電源ケーブルを接続するときは、プラス⊕とマイナス⊖の極性を間違えないように十分注意してください。**
- **DC電源ケーブルのヒューズホルダーを絶対に切断しないでください。**
- **DC電源ケーブルを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、加熱しないでください。**
- **DC電源ケーブルが傷ついている場合や、接続がゆるい場合は使用しないでください。**

5

●電源接続時のご注意

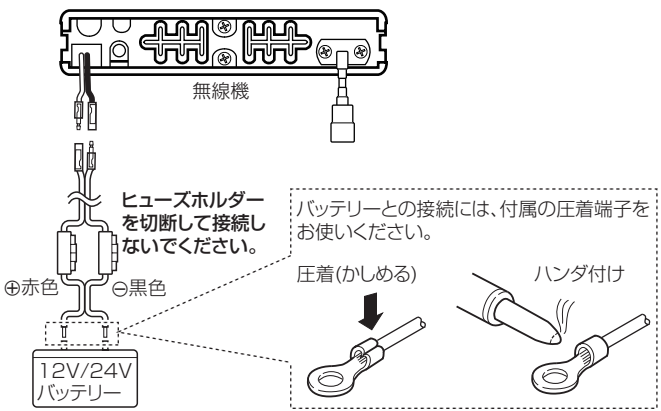
シガレットライターから電源を取っても電流容量が足りません。
また、容量が足りても、ハムの出る原因になります。

●車内からエンジンルームへの配線



本機を接続する前に、DC電源ケーブルを配線してください。

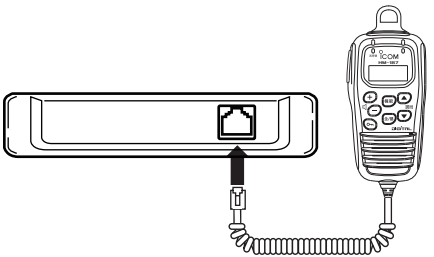
●本機とバッテリーの接続



■ マイクロホンの接続のしかた

本機前面パネルに付属品のマイクロホンを接続します。

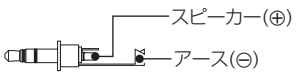
◆マイクロホンは、マイクジャックに“カチッ”と音が鳴るまで差し込んでください。



【ご参考】
無線機本体とマイクロホンの設置場所がはなれている時は、別売品のマイクロホン延長ケーブル(OPC-647)をお使いください。

■ 外部スピーカー用プラグについて

付属の外部スピーカー用プラグのピン配置は下図のようになっています。



■ マイクハンガーの取り付けかた

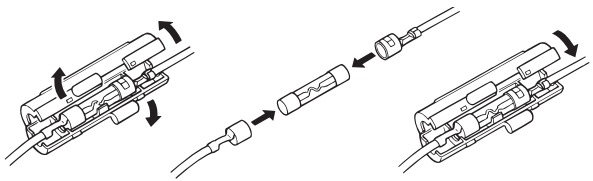
マイクハンガーは下図のように取り付けます。

■ アンテナについて

アンテナは無線通信において非常に重要な役割を持っています。
使用するアンテナや、アンテナの取り付け位置などについては、**お買い上げの販売店にご相談ください。**

■ ヒューズの交換について

付属のDC電源ケーブルには、プラス側とマイナス側のそれぞれにヒューズを入れています。もしヒューズが切れて無線機が動作しなくなったときは、原因を取り除いたあとで、新品と交換してください。
ヒューズの電流容量：5A



■ 無線機の清掃について

【⚠注意】清掃するときは、シンナーやベンジンを絶対に使用しないでください。
ケースが変質したり、塗料がはがれたりする原因になることがあります。

無線機が汚れたときは、乾いた柔らかい布でふいてください。
また、汚れがひどいときは、水で薄めた中性洗剤を少し含ませた布でふいてください。

■ 故障かな？と思ったら

- 製品はすべて厳重な品質管理と厳しい検査により出荷されていますが、万一故障が発生したときは、お買い上げの販売店または弊社サポートセンターまで、故障状況をできるだけ具体的に連絡してください。
- 定期的に決まった位置の相手局と通話して、通信状態に変化がないか調べてください。
- 車載でご使用になったときは、車載用アンテナが走行中にはずれると大変危険ですから、基台やアンテナが確実に固定されていることを点検してください。

下記のような現象は、故障ではないことがありますので、修理を依頼される前にもう一度お調べください。

〈現象〉[電源]ボタンを押しても電源が入らない
〈原因1〉 DC電源ケーブルの接触不良
処置： バッテリーまたは卓上電源装置(PS-230A)と接続しなおす。(☞P19)
〈原因2〉 DC電源ケーブルのヒューズが切れている
処置： DC電源ケーブルには、プラス側とマイナス側のそれぞれにヒューズを入れています。もしヒューズが切れて無線機が動作しなくなったときは、原因を取り除いたあとで、新品と交換する。(☞P21)

〈現象〉表示部の表示が変化しない
〈原因〉 ロック機能が動作している
処置： ロック機能を解除する。(☞P11)

■ 故障かな？と思ったら(つづき)

〈現象〉スピーカーやイヤホンから音が聞こえない
〈原因〉音量が最小に調整されている
　　処置：無線機本体の「音量」を確認する。(☞P4)

〈現象〉交信できない(応答がない)
〈原因1〉相手局と距離がはなれすぎている
　　処置：場所を移動してから交信する
〈原因2〉相手局が不在、または電源を切っている
　　処置：相手局の状態を確認する
〈原因3〉相手局と「通話チャンネル」が合っていない
　　処置：相手局と同じにする、さらに個別呼び出し機能で使用の場合は、相手局の個別番号を選択する

■ 故障のときは

●保証書について
保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

●修理を依頼されるとき
「■ 故障かな？と思ったら」(☞P21、P22)にしたがって、もう一度、本製品の設定などを調べていただき、それでも異常があるときは、次の処置をしてください。

保証期間中は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。
保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

保証期間後は

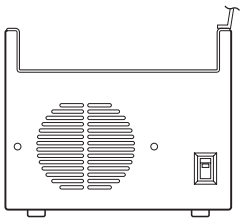
お買い上げの販売店にお問い合わせください。
修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

●弊社製品のお問い合わせ先について
お買い上げいただきました弊社製品にご不明な点がございましたら、下記のサポートセンターにお問い合わせください。

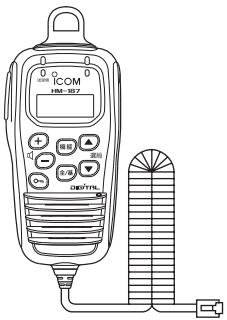
お問い合わせ先：アイコム株式会社　サポートセンター
0120-156-313(フリーダイヤル)
◆ 携帯電話・PHS・公衆電話からのご利用は、
06-6792-4949(通話料がかかります)
受付(平日 9:00～17:00)
電子メール：support_center@icom.co.jp
アイコムホームページ：http://www.icom.co.jp/

●弊社製品の故障診断、持ち込み修理などの修理受付窓口は、別紙の「サービス受付窓口一覧」、または弊社ホームページ(http://www.icom.co.jp/)をご覧ください。

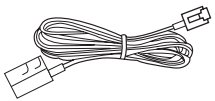
●PS-230A
卓上電源装置



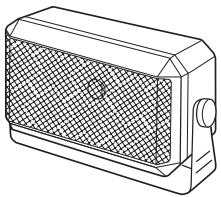
●HM-187
マイクロホン(補修用)



●OPC-647
マイクロホン延長ケーブル(約2.5m)



●SP-10
外部スピーカー



■ 別売品についてのご注意

弊社製別売品は、本製品の性能を十分に発揮できるように設計されていますので、必ず弊社指定の別売品をお使いください。弊社指定以外の別売品とのご使用が原因で生じる無線機の破損、故障あるいは動作や性能については、保証対象外とさせていただきますので、あらかじめご了承ください。

高品質がテーマです。

A-6726H-1J
Printed in Japan
© 2009 Icom Inc.

アイコム株式会社
547-0003 大阪市平野区加美南1-1-32